

# 105-286

## 問題文

処方変更後3日目には咳は軽快し解熱傾向を認めたものの、37.5℃前後の微熱が継続している。薬剤師が今後の治療方針を医師と確認した。その内容として最も適切なのはどれか。1つ選べ。

1. ロキソプロフェンナトリウム水和物の追加投与
2. フルコナゾールへの変更
3. 現在の処方薬による14日間の治療完遂
4. テオフィリンの追加投与
5. インフルエンザウイルス感染の追加検査

---

## 解答

問286：1, 3問287：3

## 解説

### 問286

選択肢 2 ですが

熱がずっと出ており、処方もマクロライド系なので、異物が体内に侵入しており、白血球数は増加していると考えられます。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 4 ですが

β-D-グルカンが陽性であれば、真菌感染症と考えられます。処方がマクロライド系です。真菌感染症には用いられません。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 ですが

抗ストレプトリジン O 抗体は、溶連菌感染症において陽性です。喀痰グラム染色で染まっていないため、誤りと考えられます。

以上より、正解は 1,3 です。

ちなみに、CRP、赤血球沈降速度は、感染症を含む炎症性疾患で亢進します。

### 問287

選択肢 1 ですが

解熱傾向にあり、さらに解熱の必要性はないと考えられます。

選択肢 2 ですが

抗真菌薬に変更する理由は見当たりません。

選択肢 3 は妥当な記述です。

グラム染色で染まらないことから、マイコプラズマ肺炎が推測されます。第1選択がマクロライド、投与後48－72時間の解熱で評価、投与期間はエリスロマイシン14日間、クラリスロマイシン10日間、アジスロマイシン 3 日間（欧米では 5 日間）が推奨されています。

選択肢 4 ですが

気管支拡張剤を追加する理由は見当たりません。

選択肢 5 ですが

解熱により感受性ありと評価でき、ウイルス検査を追加する必要性は見当たりません。

以上より、正解は 3 です。